

## 4 滋賀県保育士・保育所支援センター

滋賀県保育士・保育所支援センター（以下センター）は滋賀県と大津市が一般社団法人滋賀県保育協議会（以下保育協議会）に委託運営している。センターの開設は平成25年4月1日であるが、保育協議会は、滋賀県と大津市の委託により、平成21年12月1日から無料職業紹介事業として「保育人材バンク事業」を運営していた。「保育人材バンク事業」において保育士の就業支援に早くから取り組んでいたことがセンター運営の受託につながった。センターの職員は保育士有資格者を含む3人が配置されている。開所時間は月曜日～金曜日の9時～12時、13時～16時である。

### 1 センターの取組内容

「保育人材バンク事業」の事業内容は求人・求職登録による就職の紹介・あっせん、情報提供、再就職支援研修、出張登録相談会の実施である。センターは「保育人材バンク事業」を包括的に運営するほか、就職説明会（就職フェア）、就業継続支援研修の実施、保育士支援相談員による相談窓口を開設している。センターの情報誌「アルカンシエル」を年2～3回発行し、センター業務の周知にも取り組んでいる。

#### (1) 保育人材バンク事業

保育人材バンク事業は保育所である事業者と求職者の双

方がセンターに登録し、求人票に基づいて求職者の希望に添った求人案件が紹介されるシステムである（取り扱い職種は下表参照）。平成21年からの累計登録者数は保育士593人、そのうち求職者（すぐの就職を希望）は401人に上る（平成26年8月末時点）。登録は来所、メール、電話で対応する。登録期間は3年であり自動更新はされない。平成25年度は保育士の職種での登録者は105人、他の職種を含む登録者数136人のうちの77%となる。事業所側には保育士人材の採用活動に際してセンターを利用する意識の浸透がみられる。

【平成25年度 登録者数・求人数の状況】

職種	登録者数	求職者数	求人件数	求人数
保育士	105	95	147	500
看護師	4	3	7	12
栄養士	16	13	2	2
調理師	10	12	3	3
保健師	1	0	0	0
合計	136	123	159	517

#### (2) 就職説明会

就職説明会（就職フェア）は公立・私立の保育所が参加し、平成25年9月と平成26年2月に県南部で開催された。平成

25年9月は39ブース117保育所が出展し、205人の求職者が参加した。平成26年2月の開催は、午前に説明会、午後面接会の2部構成で延べ39ブース116人の参加があった。これは保育士養成施設から「2月に就職が未決定の学生がいる」との声をを受けて実施されたもので、公共職業安定所と共催で実施した。さらに平成26年度は秋以降の就職活動シーズンへ向けて「2014 滋賀の保育所就職フェア」を県の北部と南部の2ヶ所で開催した。2日間に46ブース131保育所、211人の参加者があった

### (3) 再就職支援研修会

再就職支援研修会は平成21年度から実施しており、平成26年度は5月～6月、10月に計8回実施した。こども園と保育所の所長、主任を講師として迎え、保育士未経験者を含む潜在保育士を対象とし、保育現場の最新状況を中心とし

#### 【平成26年度 保育士再就職研修プログラム】

日時	5月23日	5月30日	6月6日	6月13日
会場	大津市厚生会館		におの浜保育園	
研修内容	最新の保育事情・新保育所保育指針・保護者との連携	安全管理・緊急時の対応と応急手当・衛生管理と食	社会人としての心構え・コミュニケーション・遊びの技術	保育所見学
講師	こども園園長	保育所主任	保育所所長	
受講者数	10人	9人	9人	7人

た研修内容である。年度内に同じ講習を複数回実施することで、可能な限り多くの対象者が研修を受けられるよう工夫している。保育士として未就業の受講者からは「子どもたちとの関わりや注意点が聞けてよかった」、ブランクがある受講者からは「勤めていた頃との変化が事例を通じて知ることができて勉強になった」との声が聞かれた。

### (4) 就業継続支援研修

就業継続支援研修は就業中の保育士を対象としたもの（フォローアップセミナー）と、保育士の採用に関わる人材担当者を対象としたもので内容が異なる。保育士を対象とした研修はヨガ体験や絵本の読み聞かせを通じて、保育士がリフレッシュする場を提供することを目的としている。平成25年度は

【フォローアップセミナー 読み聞かせの様子】



計5回実施され、79人の参加があった。さらに継続就業のための労務者管理研修に力を入れている。平成26年7月に保育所所長や主任保育士を対象とし、草津市内で

「保育士マッチング大作戦フォーラム 本音で語ろう保育士不足の悩み 出し合おう知恵と工夫」を開催（センター、滋賀労働局、滋賀県の三機関の共催）し、50人の参加者があった。「保育士資格を取得しても保育現場に就職する人が少ないのはなぜか」「就職後一年で離職してしまうのはなぜか」といった保育士の雇用状況をテーマに基調講演とパネルディスカッション、グループトークの3部構成で「魅力ある保育所運営」について話し合われた。保育士養成施設、各市町、保育所、こども園での実情や課題について意見交換が行われ、人材育成の課題が挙げられた。参加者からは「大変貴重で、今までにない形での研修に参加できてよかった。今後もこのような企画を続けてほしい。」「保育士不足を、園の職員全体の責任として捉える一方、管理者は職員や実習生を大切に少しでも働きやすい職場にしていきたいと感じた。」など、好評を博した。申込者は定員の50人を超えたことから、現場におけるニーズの高さがうかがえる。

【滋賀県内 保育所・保育園マップ 県内の公立/私立の保育所・園が一覧できる】



## (5) 出張登録・相談会

平成23年度より県内各地の市民センターやマザーズジョブステーションにおいて実施し、累計152人の登録があった。登録者の72%にあたる110人がすぐに就職したい求職者であり、センターの外に出向き、広範に求職者の意向を把握する支援を実施している。

### 【労務管理者研修 配付資料】

<p>保育士不足にどう立ち向かうか 知恵と工夫で魅力ある保育所運営を考える 大原昭彦 滋賀県立大学 児童福祉学部 大原美香</p>	<p>③ 対話する関係性を育てる 新任保育者の危機的時期を考える。 …省察することで専門性に気づく。 (自分がいっぱい → 子どもが…) …気になる子どもを抱え込まない。 対話しながら皆で考える。</p>	<p>保育士不足にどう立ち向かうか 知恵と工夫で魅力ある保育所運営を考える 課題となること ①環境の変化を考える…情報獲得・生活環境 ②保育者の変化を考える…潜在的保育士発掘 …子育て支援員(案)との連携 ③対話する関係性を育てる 新任保育者の危機的時期を考える …省察することで専門性に気づく。 (自分がいっぱい → 子どもが…) …気になる子どもを抱え込まない。 対話しながら皆で考える。 ④退職理由から考える ・職場の人間関係って…? ・子どもとの関係って…? ・保護者との関係って…?</p>
<p>課題となること ① 環境の変化を考える …情報獲得・生活環境 ② 保育者の変化を考える …潜在的保育士発掘 …子育て支援員(案)との連携</p>	<p>④ 退職理由から考える ・職場の人間関係って…? ・子どもとの関係って…? ・保護者との関係って…?</p>	

## (6) 保育士支援相談員による相談窓口

平成25年度より保育士支援相談員を配置し、保育所に勤務する上での悩み相談を専用電話（ホットライン）にて受け付けている。平成26年から専用メールアドレスも設置した。平成25年度の相談件数：103件（来所者：13人、電話：86件、メール：1件、郵送ほか：3件）、平成26年度～8月末：94件で、ブランクから復帰に際しての不安を持つ潜在保育士、勤務先の処遇に悩みを抱える現職保育士、就業して1年目の保育士などからの相談を受けた。センターは保育士の

メンタリティもサポートする役割を担っている。

### (7) 情報誌の発行

滋賀県保育士・保育所支援センター情報誌として平成26年5月より「アルカンシエル」(仏語で虹の意)を年2～3回の予定で発行している。活動内容や事業計画を豊富な写真で紹介し、事業内容を宣伝すると共に、誌名のとおり潜在保育士と保育所の架け橋としてセンターの周知に努めている。

#### 【アルカンシエル 創刊号】



## 2 センター運営の特徴・工夫点

センター運営を受託している保育協議会は県内の276認可保育所が加入しているため、運営に際して直接保育現場と連携することができる。保育現場の現状分析や対策を講じる際に連携を図り、支援事業を広範に実施することができる。

## 3 センター運営の実績

保育人材バンクの取組により、平成21年12月から平成26年8月末までに累計132人の保育士が再就労した。センター開設後の実績に限定すると、平成25年4月の開設から平成26年3月までに50枚の紹介状を発行し、保育士の採用数は36人、72%の採用率となっている。

#### 【滋賀県保育人材バンク就労者 平成21年度12月～平成26年度8月末】

職種別	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計
保育士	9	19	25	33	36	10	132
看護師	0	0	1	2	1	0	4
栄養士	1	0	0	0	0	0	1
調理師	0	0	5	1	2	1	9
合計	10	19	31	36	39	11	146

## 4 センター運営の課題

センターの広報周知を目的としたダイレクトメールの発送に際して、保育士登録の情報が活用できない。個人情報の観点から差し控えていると共に、氏人変更や住所変更があること、現在の就業状態が不明など、保育士登録内容をセンターの業務に使用するには調整が必要である。